

## ウズラシギ *Calidris acuminata* (Horsfield)

### 【選定理由】

春秋の渡りで伊勢・三河湾沿岸部の水田や湿地などに飛来するが、1980年代半ば以降に個体数が著しく減少し、近年では限られた場所にごく少数が飛来するに過ぎない。1980年代までは、木曾川周辺や矢作川河口から一色干潟周辺、汐川周辺の干拓地などで、特に春期はそれぞれの地域で50～300羽程度の飛来が確認されていたが、現在では多い年でも県内全域の合計が20羽以下程度である。

### 【形態】

全長17～22cm、翼開長36～43cmで、雄は雌よりひと回り大きい。夏羽は、頭部および上面が茶褐色で頭尖は赤茶味が強く、脇から胸にかけて明瞭な黒斑が密にある。冬羽と幼羽は、ともに脇や胸の黒斑が明瞭でないが前者は上面が灰褐色で、後者は茶褐色で色あいは夏羽に似る。嘴は黒く基部は黄色味を帯び、脚は黄緑色。



愛知県西尾市, 2017年8月31日, 高橋伸夫 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

春秋の渡りの季節に、主に伊勢・三河湾沿岸の水田地帯に飛来する。

#### 【国内の分布】

春秋の渡りで飛来し、主に水田や荒地などの淡水湿地に生息する。

#### 【世界の分布】

シベリア東北部で繁殖し、ニューギニア、オーストラリア、ニュージーランドなどで越冬する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

春期は4月から5月に、水が張られた水田などの淡水湿地に飛来するが、地域によっては干潟にも入る。かつては1群数羽から20羽程度の群で生息し、こうした群れが同一地域のあちらこちらの水田で見られた。小型の水棲昆虫や貝類、植物の種子などを捕食して、クリックリッと鳴く。雄は雌より大きく、春は雄が体を震わせながら雌に求愛行動を行うこともある。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

県内の主な生息地として、旧立田村、鍋田周辺、矢作川河口周辺から旧一色町沿岸部周辺、汐川干潟周辺などがあげられるが、近年は多い年でも県内の合計は、春が20羽、秋が10羽程度である。減反の方法が、休耕田から隔年の麦・大豆への転作に変更されたことで、水田本来の水棲生物や土壌生物が生息できなくなり、これらを餌とするシギやチドリが生息できなくなっている。

### 【保全上の留意点】

干拓地や埋立地の遊休部分に、淡水や汽水の湿地環境を復元する努力が必要である。また、シギ・チドリ類が多く生息していた地域では、水田の一部を借り受けて休耕田とするか、水田の一部の転作作物を麦・大豆でなく飼料米等にするなどで、毎年水田の環境が継続されるようにすることが必要である。また、水田の一部を冬期湛水することで、水棲生物や土壌生物の生息環境を保全することも大切である。

### 【特記事項】

矢作川流域では、春秋共に沿岸部では飛来数が激減しているが、内陸の岡崎市や豊田市などでは、数はごく少ないものの現在でもシギ・チドリが飛来する水田が存在している。麦・大豆等の転作を行わず、毎年稲作を行って、冬期も湿潤な水田であれば、水鳥は飛来することを示唆している。

### 【関連文献】

真野 徹, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, p.122. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)